

業種	鉄道
取組分野	自然災害対策（地震、河川の増水）
テーマ	鉄橋被害を想定した事業継続への取組について
取組の狙い	自然災害により鉄橋が使用不能となることを想定し、鉄橋の手前に折り返し運転設備を設置して輸送への影響を最小化した上で事業継続を図る。
具体的内容	<p>静岡鉄道株式会社は、近い将来に発生すると言われる南海トラフ地震による津波若しくは河川の増水が発生した場合、新清水駅近くにある巴川橋梁が使用不能となることを想定し、その際に、新静岡駅～桜橋駅間または新静岡～入江岡駅間で折り返し運転ができるよう 2006 年 3 月に巴川の西側に渡線を設置する対策を講じた。</p> <p>1. 渡線設置を検討した背景</p> <p>巴川橋梁については、増水時の対策として川の水位を確認するための橋脚に目盛を付け遠隔カメラにて台風や大雨時に状況を監視し運転規制を行っていたが、2004 年度に当該橋梁から近い入江岡駅付近で大雨による線路冠水があり、この周辺地域の今後の災害に対する対策を検討することとなった。</p> <p>検討の結果、入江岡駅付近の冠水対策として、レールを重軌条化（37Kg→50NK）し線路の嵩上げを実施。巴川橋梁については、川の増水等で決壊した場合に備え、影響範囲を最小限に食い止めるため橋梁手前に「渡り線」を設けることで、新清水駅まで行かなくても運行を継続できるようにした。</p> <p>2. リスク評価</p> <p>自治体が公表している浸水ハザードマップを参考にして、津波浸水地域直近の駅で折り返し運行が行えるよう渡線を新設することとした。</p> <p>3. 経営管理部門の検討と判断</p> <p>今後のリスクを最小限とするためにも必要な投資であると判断し、検討開始の翌年度に予算化、工事を実施することとなった。</p> <p>< 静岡清水線路線図 ></p> <p>The diagram shows the route from Shin-Shizuoka to Shin-Shimizu. Stations are marked as Shin-Shizuoka, Sakurabashi, Iriyama, and Shin-Shimizu. A crossing line (渡り線) is shown between Sakurabashi and Iriyama. A red dashed box highlights the area between Iriyama and Shin-Shimizu, labeled '浸水想定区域' (Flood-prone area), which includes the Barakawa river (巴川) and the crossing line. A blue double-headed arrow indicates '折り返し運転が可能' (Return operation possible) between Shin-Shizuoka and Sakurabashi, with '1 1 駅' (1 station) noted. Another blue arrow points from Shin-Shizuoka towards the crossing line area.</p>

【巴川橋梁】



【渡線】



取組の効果

1. 2011 (H23) 年 3 月に発生した東日本大震災の際、大津波警報発令を受け、渡線を使用した折り返し運転を支障なく運行できた。
2. 2014 (H26) 年 10 月に発生した台風 16 号による巴川増水時にも、渡線を使用した折り返し運転を支障なく運行できた。

事業者名

静岡鉄道株式会社 鉄道部 安全推進課
(連絡先：054-254-5137)